

海洋プラスチックごみ対策

【背景】

海洋プラスチックごみの問題は、水産資源や漁業など本市の基幹産業への影響や消費者の安心・安全の確保、観光やレジャーへの影響、船舶航行の障害なども懸念されており、「海と生きる」を標榜する本市にとって重要な問題です。



【気仙沼市海洋プラスチック対策推進会議の開催】

(令和元年5月～)

- 目的: 海洋プラスチック対策の具体的取組を検討
- 構成: 学識経験者や関係団体の役職員など21名
- 開催状況: 4回開催(5/22, 6/18, 8/1, 9/4)



「海洋プラスチックごみ対策アクション宣言」

「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」策定



【講演会の開催】

■“海と生きる”連続水産セミナー

○講師: 東京海洋大学
理事兼副学長 東海 正 氏

■海洋プラスチック問題に関する講演会

○講師: 大学院大学至善館
教授 枝廣 淳子 氏



海洋プラスチックごみ対策

海洋プラスチックごみ対策アクションプラン(概要)

【基本方針】

- 1 海上でのプラスチックごみの徹底した回収
- 2 陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制
- 3 意識の啓発と変革

1 海上でのプラスチックごみの徹底した回収	2 陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制	3 意識の啓発と変革
<p>(1) 漁具等の適正回収</p> <ol style="list-style-type: none">① 使用済み漁具の集団回収により陸上での処理を推進する。② 漁業系廃棄物処理ガイドラインの周知徹底。ごみの減容・減量化に関する技術開発の促進。③ 海中ごみの陸上への持ち帰りを一層推進する。 <p>(2) 適正な漁具の使用と適正管理</p> <ol style="list-style-type: none">① 漁具としての使用が想定されていないペットボトル等を適正な漁具への転換を促進する。② 漁具の適正な利用や管理, 操業前後の点検等について啓発する。 <p>(3) 海中ごみ・漂着ごみの徹底回収</p> <ol style="list-style-type: none">① 海ごみ回収ステーションの設置② 海面清掃の推進③ 海岸の清掃を様々なイベントや機会を通じて広く呼びかける。④ 海水浴場の清掃	<p>(1) 使い捨てプラスチックの使用抑制</p> <ol style="list-style-type: none">① マイバッグ運動② 機能性やデザインに優れたオリジナルのエコバッグを作製する。③ レジ袋有料化に関する情報の提供④ レジ袋ご遠慮カードの作成・配布⑤ イベントや会議等においては, ペットボトル以外での飲料提供とする。⑥ マイボトルの普及促進 <p>(2) 家庭系リサイクルごみの分別徹底</p> <ol style="list-style-type: none">① リサイクルごみの分別徹底とプラスチック製容器包装の対象品目を拡大する。② 小売店の店頭回収を推進する。 <p>(3) 陸上での徹底した回収</p> <ol style="list-style-type: none">① 全市一斉清掃の推進② ポイ捨て・不法投棄撲滅に向けたパトロール強化③ 農業用プラスチックごみの回収推進④ スマイルサポーター制度の周知	<p>(1) 消費者のライフスタイルの変革</p> <ol style="list-style-type: none">① 海洋プラスチック対策やごみの3Rなどの情報を発信し, 啓発する。② 各種団体等によるマイバッグ・マイボトル運動を実施する。 <p>(2) 海洋教育・環境教育を含むESDの推進</p> <ol style="list-style-type: none">① 各種イベントでのごみの分別を徹底する。イベント会場に給水コーナーを設置する。リユース容器の使用などを検討する。② 啓発パネルを作成する。③ ごみ分別ガイドラインを作成する。④ 児童生徒や教職員の研修に専門的な講師を招き, 認識を深める。また, 各学校の学習の中でSDGsに関連を図ったESD・海洋教育を実践する。⑤ 漂着ごみの調査⑥ 代替素材の開発や転換, 調査研究に関する情報発信